

## ■在パラグアイ企業からみた最新のパラグアイ情勢



Cámara Japonesa  
de Comercio e Industria en Paraguay  
在パラグアイ日本商工会議所



現時点で目ぼしい成果はないが、就任時の公約達成に徐々に着手しており、また外交面では、投資促進を目的としたトップ外交に一定の評価ができる。未だ批判的な声が多いものの、経済界との意見交換や各分野の専門家との協力姿勢がみられ、今後は実行力の発揮が課題。また政治スキャンダルの影響は要注視。

## 政権発足後の主な取り組み

2018年8月 政権発足



2018年12月 政権発足100日目

✓ 慣例の「今後の施政方針」を発表せず。

2019年1月 ダボス会議

✓ 低い法人税等のメリット維持を国際場で明言。  
✓ 政府サービスのデジタル化(公約)に関する  
マイクロソフト社との協業を発表。



2019年2、3月 インド、米国、イタリア、  
パナマ、等の国家元首・閣僚 訪パ

✓ 通商の拡大や投資促進に向けた協議を実行

2019年4月 税制改革案を国会に提出  
(内容については賛否あり、要改善)



2019年6月 ベニーテス大統領 訪ボリビア

✓ 両国間の通商強化(1,800万ドル超)合意。

2019年7月 政治スキャンダル(イタイプダム協定)  
✓ 外務大臣をはじめ、電力関係の政府高官が辞任。

## 政権の主な課題

<課題>

### ①「輸出拠点パラグアイ」のための投資誘致の継続性。

✓ **投資誘致が生命線**、国際場でコミット。  
逆行する政策は自己否定、議会の同意は難しい。

= **マキラ制度他の法的安定性は高い**とみられる。

### ②利益調整型政治の実行力。

✓ 内政での利害調整。トップ外交の推進。  
利害調整がはまれば、自動車協定や税制改革  
などの重要課題も解決可能。

= **経済界の支持が死活的に重要**。経済低迷下  
での政策により信頼を得るチャンス。  
**政治スキャンダルの影響が懸念**。

### ③山積するペンドイング事項

✓ 内政：司法改革、汚職撲滅 など  
✓ 外交：ブラジルとの自動車協定  
メルコスール域外との貿易多角化 など

= 一部に着手するも、**構造的な問題も多い**。



# 経済情勢

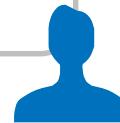
南米諸国の中でも安定した成長を遂げているも、2018年下半期からの公共工事の遅れに加え、2019年上半期は売電収入の減少(パラナ川水量減)、農牧畜業の鈍化が想定以上となり、通期の成長率見通しは1.5%まで引き下げられた。新規公共事業などの改善要素もみられる一方、投資/控えの傾向もあり、低空飛行が続く見込みだが、セクター別にみると明るい要素も多い。

## セクター別 GDP成長率

		2017年	2018年	2019年*
一次産業	農業	7.9	2	-4
	牧畜	2.9	-2.4	-1.3
	農林水産・鉱業	-1.7	2.4	-5.9
	合計	6	1.2	-3.7
二次産業	製造	6.2	3.7	-0.1
	建設	3.5	0.2	3.1
	電気・水	-2.5	1.5	-4.2
	合計	3.5	2.6	-0.5
三次産業	商業	10.6	7.4	-2.2
	輸送	7.8	-1.2	2
	情報通信	5.5	5	4.7
	金融・保険	0.5	4.9	7
	不動産	4.7	2.9	4.8
	企業向サービス	3.8	3.4	3.5
	飲食・ホテル	6.8	8	7.8
	個人向サービス	5.6	8	7.5
	公務	1.6	6	6.5
	合計	5.3	5.3	3.9
GDP全体		5	3.7	1.5

## 現地企業・有識者の声

市況や天候に恵まれた2017,18年と比較し、輸出の数値上のマイナスが大きい。但し、生産量が順調に増加している農産物も多く、悲観はしていない。



製造業全体での成長率は鈍化しているが、マキラ制度を活用した輸出は安定して伸びている。まだ規模は小さいが、更なる成長が見込まれる。



第一四半期は、報道で言われているほど、アルゼンチン・ブラジル経済鈍化の影響は大きくなかった。しかし景気悪化が叫ばれ、心理的要因で投資・消費が減退している。





# 分野別 最新動向 ~農牧畜業~

2019年8月1日

在パラグアイ日本商工会議所

農業：各種農産物の生産は増加するも、市況価格によるボラティリティを受けやすく、加工などの高付加価値化にチャンス。政府の政策も生産量・価格に影響し、安定性が課題。  
牧畜：チャコ地方を中心に成長著しいが、輸出制度等の整備が更なる成長・輸出に必要。

## 農牧畜業の現況

### ＜業界構造＞

#### 大規模農家

例) コモディティ(大豆、小麦etc.)、  
牧畜など



#### 小規模農家

胡麻、チア、蔬菜、  
マテ茶など



### 生産性

### 成長性

### 競争

### ＜地理的分布＞

西部地方  
(チャコ地方)

牧畜業中心



### 東部地方

### 農業中心

## 更なる成長に必要な課題

### ＜課題＞

#### ①ボラティリティが高い(市況・政策の影響)。

- ✓ 一次産品輸出が多く、市況変動を受けやすい。
- ✓ 小規模農家中心の品目は、政府による補助の有無で生産量・価格に影響がでる。

= 加工業への投資にチャンス。

徐々に取り組む企業が増加しているものの、未だ投資は少なく、競争が激しくない。

#### ②政府のガイドライン・輸出制度などが未整備

- ✓ 多くの品目で生産量が増えているものの、輸出品目が相手国の基準を満たしていないケースあり。  
例) 牛肉：一部企業によるロシア輸出が一時差止。  
理由は、特定抗生物質の利用。

= 様々な品目にチャンス。しかし、輸出品目は、  
グローバル基準を満たすため、ガイドライン  
を政府が制定するなど、早期の施策が不可欠。

※注) 一部品目は、日本政府・パラグアイ政府間で、  
検査基準や輸出制度が整備されており、輸出に貢献。



パラグアイは労働集約型産業に強みがあり、特にマキラ制度による輸出は経済動向にかかわらず、安定的に増加している。政府の投資インセンティブに加え、税金の安さ、雇用環境の安定度(労働ストライキがほぼ無い)など、進出メリットは中南米随一。法整備や政府組織の改善によって、更なる成長が期待できる。

## 商工業の現況

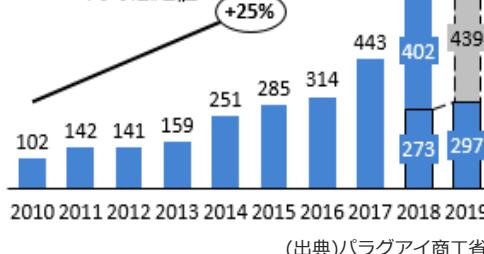
### <マキラ制度>

- ✓ 中南米経済の低迷下も、一貫して増加。

- ✓ 輸出先は、約90%がメルコスール。

### マキラ制度利用企業の輸出額

2019年のグレー部分は6~12月の想定値



### <メリット一覧>

#### 政治

- 親ビジネス政権の継続(2003年以降)
- **政府インセンティブ**  
(マキラ制度等)

#### 経済・産業

##### マクロ

- 安定した経済政策。  
(通貨、物価が安定)

- **低い事業コスト**  
(電力、税制、賃金)
- メルコスール域内関税なし

#### 社会

- 穩健且つ勤勉な国民性  
(**労働争議なし**)
- 良好的な治安

#### 技術

- 手工業の水準の高さ



## 更なる成長に必要な課題

### <課題>

#### ①法整備の未熟さ、行政対応の遅さ

- ✓ 日本水準と比して守るべき基準が低い法制度。
- ✓ 輸出入時の許認可・手続きの遅さ、縦割り組織。

#### ②広義の知的財産保護

- ✓ 密輸や模倣品により、正規品の販売が圧迫される。  
制度設計に加え、運用・取締りが重要。

### <ボトルネック一覧>

#### 政治

- **未熟な法制度、許認可/手続きの遅延**
- **知的財産保護**、縦割り組織。
- 汚職

#### 経済・産業

##### マクロ

- 健全な財政政策ゆえの  
借款利用率の低さ

##### ミクロ

- 送配電網を含む、  
産業インフラの未熟さ

#### 社会

#### 技術





# 分野別 最新動向 ~商工業(ご参考)~

2019年8月1日

在パラグアイ日本商工会議所

## 〈パラグアイの対中南米輸出額〉

### 対中南米向け輸出額

2017年 約49億ドル  
-2010年比 25%増

(参考)

### 中南米域内の貿易総額

2017年 約274億ドル  
-2010年比 △18%減



- メルコスール: パラグアイ、アルゼンチン、ウルグアイ、ブラジル、ベネズエラ(一時停止中)
- 太平洋同盟: コロンビア、チリ、ペルー、メキシコ

## 対ブラジル向け輸出額

2017年 約28億ドル  
-2010年比 26%増

## 対アルゼンチン向け輸出額

2017年 約11億ドル  
-2010年比 204%増

(出典) World Integrated Trade Solution

## 〈事業コスト比較〉

比較項目(USD)		アスンシオン (パラグアイ)	中南米7都市 平均 (*)	ASEAN6か国 平均 (**)
電力	業務用電気料金 (1kW当たり)	0.02	0.10	0.11
	一般用電気料金 (1kW当たり)	0.06	0.14	0.09
税制	法人所得税 (表面税率)	10%	10~35%	18~30%
	個人所得税 (最高税率)	10%	10~36%	25~35%
賃金	製造業	ワーカー (一般工職) (月額)	340	782
		エンジニア (中堅技術者) (月額)	1,380	2,403
		中間管理職 (課長クラス) (月額)	1,730	4,525
				1,046

(出典)JETRO投資コスト比較



金融・保険：中央銀行の金融改革により業界が健全化し、安定した成長を遂げている。

観光：観光資源の開発やホテル等の整備に政府・企業が取り組むも効果は薄く、中南米他国の旅行とのパッケージ化や旅行コンセプトの先鋭化といった対策に取り組む必要あり。

その他：飲食・ホテル業界の競争が徐々に激化している。教育業界にもポテンシャルあり。

## サービス業の現況

### <総論>

- ✓ 主要産業である農業が低迷する中でも、**三次産業がパラグアイ経済を牽引**している。
- ✓ 全ての分野でポテンシャルがあるも、ブラジル、アルゼンチン企業を中心に、様々な国からの投資が増加しており、競争が激しくなっている。

### <三次産業 GDP成長率>

※予測値

	2017年	2018年	2019年※
三次産業	商業	10.6	7.4
	輸送	7.8	-1.2
	情報通信	5.5	5
	金融・保険	0.5	4.9
	不動産	4.7	2.9
	企業向サービス	3.8	3.4
	飲食・ホテル	6.8	8
	個人向サービス	5.6	8
	公務	1.6	6
	合計	<b>5.3</b>	<b>5.3</b>
			<b>3.9</b>

(出典) パラグアイ中央銀行

## 更なる成長に必要な課題

### <課題>

- ① **中央銀行を軸とし、金融業界の健全化が進んでいるも、ネガティブイメージが払拭されていない。**
  - ✓ **中銀による監督制度の厳格化により、市銀の経営レベルが高位に安定。**  
マネロン規制も強化されている。

= 中銀は国際的な評価が高く、安定した為替・インフレにより、**経済基盤の安定性が高い**。

### ② **優秀な人材不足(全産業共通)。**

- ✓ 多言語、マネジメント、技術人材の確保が難しい。一方で、人材育成を目的としたビジネスにはチャンス。

= 管理職・技術者はブラジル人を活用する企業も多い(ポルトガル語で仕事ができる機会も多い)。相互の行き来が容易で、**ブラジル進出企業はパラグアイ進出のハードルが低い**。



## 会員企業の声



- ✓ 日本大使館との距離が近い。  
困りごとを相談しやすい。
- ✓ パラグアイ政府の閣僚と密に連携できる。
- ✓ **フロレンティン大使が、民間企業を親身に支援してくれる。**



- ✓ 住んでわかる治安の良さ。
- ✓ 物価が安い。
- ✓ **日本人学校**があり、きめ細かい教育を受けられる。



- ✓ **日系人医師**が多い。
- ✓ 駐在員も安心してできるレベルの高い病院がある。



- ✓ **法人の設立コストが低い。**
- ✓ 若い労働力が多い。工場労働者が雇いやすい。

## 内山工業株式会社の事例

### <企業概要>

本社：岡山

業種：自動車部品・建材など

「密封と絶縁」技術を用いたガスケット、シール等を扱うメーカー。

グローバルにビジネスを展開し、国内・海外シェアの高い製品を複数擁する。

進出：2016年

取組：中南米には工場を有していないが、パラグアイを同地域での販売拠点として活用している。

### <パラグアイに進出した理由>

パラグアイに事務所を設置した理由は、**事業コストの低さ**（低い人件費、安い税金、労働問題の極少さ）。

また治安の良さや日本人学校の存在も、駐在員にとって重要な要素。

出張の多い仕事なので、**家族が安心して住める環境**なのは嬉しい。

